

外交・情報権限を官邸に移行

冷戦期、官邸は外交・安保を外務省に丸投げ
族議員のいない外務省が外交独占

現在、外交官を6000人から8000人に増加中

235カ所に在外公館、毎年3-4カ所増設

2002年以来の外務省・JICA改革を。ODAにも欠陥

安倍政権時代に外交司令塔、NSS（国家安全保障局）が誕生

高市政権は情報機関の統合進める。経済安全保障も重視

国家情報会議、国家情報局が誕生へ

次はCIA型対外情報庁、スパイ防止法が焦点

日露、日中関係は冷戦後最悪

中露首脳共同声明（5・20）＝「非核3原則見直し批判」「日本の再軍備批判」「大戦中の日本の戦争犯罪究明」

去年は戦勝80周年で反日で結束強化

ロシアは平和条約交渉中止、制裁合戦

高市首相の「存立危機事態」発言で日中は没交渉

中露の合同軍事演習拡大

大陸国家中露の結束は日本に脅威

安倍氏は「中露離間を重視」と回想

11月の深圳APECに注目

今夏駐露、駐中国大使が交代へ



中嶋嶺雄（1936-2013）の日本外交批判

- 「79年の日中平和友好条約は拙速」
- 「冷戦期の中国一辺倒外交に警告」
- 「日中友好は対中位負け外交」
- 「外務省チャイナスクールの責任」
- 「巨額のODA感謝されない」
- 「尖閣棚上げ論に陥穽」
- 「ゴルバチョフ時代に領土で譲歩を」
- 「領土折半、共同利用など提唱」
- 「外交はタイミングがすべて」



中嶋嶺雄

日本外交1992年の失敗

エリツィン政権は領土問題解決主張
日本のGDPはロシアの52倍

92年3月に外相が対日秘密提案

①歯舞色丹の返還②国後択捉の帰属
一を並行協議。日本は無視

ブッシュ政権は平和条約締結を仲介

「過渡期に解決を」（ゼーリック 국무次官）

G7声明に領土問題明記で逆効果

9月にエリツィンが訪日キャンセル



92年日本外交は天皇訪中に躍起

毎年末に外交文書公開。23年公開分に注目。

1989年天安門事件でG7が対中制裁

91年海部首相訪中、制裁部分緩和

92年天皇訪中。制裁解除

橋本恕大使、谷野作太郎アジア局長主導

橋本が自民党懐柔、共同通信に圧力

中国は日本の協力で国際社会復帰

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/shozo/ikan.html>

「戦後外交記録公開目録」で検索。外交史料館で展示



1992年日本外交の教訓

92年は日中・日露のクライマックス

「日本は対中制裁戦線で最も弱い環」（銭其琛元外相）

天皇訪中が天安門事件の免罪に。中国大国化に道。

米国も裏で対中接近の動き。バスに乗り遅れるな。

橋本大使は頻繁に帰国し自民保守派を懐柔

対露強硬派が実権握り、交渉せず

北方領土交渉の公文書は基本的に秘匿

「永遠の日中友好」「永遠の中ソ対立」期待